

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：32619

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560739

研究課題名(和文)まちづくりと連動する社会貢献学習システムの開発

研究課題名(英文)Development of Service-Learning Programs in University for Community Improvement

研究代表者

志村 秀明 (SHIMURA, HIDEAKI)

芝浦工業大学・工学部・教授

研究者番号：10333139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円、(間接経費) 1,260,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、米国の大学等で実践されている社会貢献学習プログラムを我が国の実状に合致するように改良を加え、まちづくりと連動する社会貢献学習システムとして確立することを目的とする。まず、米国の大学の先進的な社会貢献学習プログラムの実態を明らかにした。次に、東日本大震災からの復興まちづくり支援を中心として、大学の社会貢献活動の状況を明らかにした。そして先進的な取り組みを踏まえて、我が国における大学の社会貢献学習プログラムを実践的に開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop of service-learning programs in university for community improvement, through the matching U.S. universities programs with the real condition of Japan. In conclusion, this study clarified the actual situation of service-learning programs in U.S. universities, clarified the situation of universities outreach activities for the recovery from the great east Japan earthquake disaster, and developed service-learning programs in Japan with practical methods.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：社会貢献 連携 大学 貢献学習 教育 まちづくり 復興支援

1. 研究開始当初の背景

我が国における市民参加のまちづくりは益々活発になっている。NPO 法人数は 3 万を超え、まちづくりに係わる NPO の数も順調に増加している。それに合わせてまちづくりを支援する方法の開発も多く行われてきた。研究代表者らもワークショップの手法を用いた「まちづくりでデザインゲーム」という手法を開発してきた。論文や著書を通じて、ビジュアルシミュレーションとロールプレイによる将来の目標空間イメージに関する合意形成手法、まちづくりデザインゲームの手法の枠組み、まちづくり支援手法の全体像を提示している。これらは単なる手法の開発にとどまらず、実際のまちづくり活動における実践から開発したものであり、市民社会と応答しながら開発したものである。このように、大学研究者や学生、専門家がまちづくり活動を支援する方法論や手法は確立されつつある。

一方で、将来の我が国の社会とまちづくりを担う学生への教育方法や市民への教育の緊急性が増している。20 世紀後半の米国ではミーイズムと呼ばれる自己中心的な考え方をする傾向が広まったが、それと同じような状況が我が国の若者にも起こっている。市民の義務と責任、社会的マナー、倫理観を教育に取り入れる必要性は論を待たない。米国では知識偏重の教育の反省から、地域体験型の教育・学習方法である「サービス・ラーニング」が普及している。これは「学習効果を高め、市民的責任を教え、地域社会を強化することをねらいとして、意味ある地域貢献活動に事前の指導と事後の振り返りを取り入れた教育と学習の手法」と定義されている。具体的には、学生が大学での学習や研究で身につけた知識や開発した技術を用いてボランティア活動を行うことで単位が取得できる。地域体験型のプログラムのため、都市計画・デザインに係わる教員が深く関与しているものが多い。このような取り組みの実態調査を行い、概念と手法を我が国に導入することは大きな意義があると言える。しかしながら、元々ボランティア活動が盛んなアメリカと我が国の市民性の状況は大きく異なり、単純な導入はできない。我が国の学生、地域社会の実状に即した導入が求められる。

また第三に、米国の Richard Florida の著書「The Rise of the Creative Class」が世界中で話題になっているが、その中で、クリエイティブな都市・コミュニティの創出に大学が大きく関与していることが論じられている。世界的な課題「都市・コミュニティをいかにクリエイティブにするか」に取り組む一つのアプローチとして、大学が関与するまちづくりが世界的に注目されている。まちづくりに着目して、大学の社会貢献活動と社会貢献学習をシステムとして確立することができれば、コンパクトシティの実現、コミュニティの強化等の課題を解決できる。

2. 研究の目的

本研究は、米国の大学等で実践されている地域貢献の取り組みや活動プログラムを我が国に導入しつつ、米国と我が国とのこのテーマに関する議論を活発化し、かつ実際のフィールドにおける試行的な活動を通じて、まちづくりと連動する社会貢献学習システムを確立することを目的とする。

具体的には、研究代表者の留学のためやむなく中断した 2008 年度の科学研究費補助金による研究を継承し、また成果を進展させることで、米国における大学の地域貢献活動の体制を明らかにし、米国の研究者や実務者と、我が国で先進的な活動を行っている研究者らの交流を促進すると共に、ワークショップ方式により多様なアイデアを収集しつつ、我が国で実現可能な社会貢献活動システムの枠組みを提示し、実際の社会貢献学習を試行的に実践し、最終的な「まちづくりと連動する社会貢献学習システム」を提示する。

3. 研究の方法

本研究は、以下の 5 点から研究を進め最終成果に至る。

(1)米国における大学の社会貢献学習に関する実態解明：社会貢献学習が先進的に行われている米国の大学の取り組みについて実態を把握する。

(2)東日本大震災からの復興まちづくりにおける大学の地域貢献活動の実践と状況把握：東日本大震災の発生によって、活発化している大学の地域貢献活動の状況を把握する。また自ら復興まちづくりを支援し、大学の地域貢献活動の方法を検討する。

(3)芝浦工業大学と地域との連携活動の方法論化：研究代表者の所属大学が地域と連携して社会貢献学習を実践するための方法を確立する。

(4)大学の社会貢献学習に関する国際的な議論の活性化：研究成果を国内外の学会で発表し、関連する研究者との交流を深めることで、大学の社会貢献学習に関する意見交換の体制を確立する。

(5)我が国における大学の社会貢献学習システムとして、社会貢献学習の体制とプログラムを提示する。

4. 研究成果

(1)米国における大学の社会貢献学習に関する実態解明

East St. Louis Action Research Project の実地調査：2012 年 9 月 9 日～11 日にかけて、イリノイ州イーストセントルイス市でイリノイ大学が継続して行っている地域貢献教育の実態調査を行った。これは 1987 年か

ら実施しているもので、都市の荒廃による問題を住民や NPO と共に改善しようとするプロジェクトであり、大学の学部・学科が横断的にプロジェクトに参加し、多くの学生が参加している。その実態とヒアリング調査を行った。

East St. Louis Action Research Project の実態把握と、「大学におけるまちづくり地域貢献教育-米国の総合大学を事例として-」日本建築学会技術報告集、第 35 号、p349-354、2011.2 での研究成果を統合し、International Union of Architects 東京大会で発表した。米国では、様々なタイプの大学・学部・学科がまちづくり教育プログラムをもっていること、教育プログラムの種類は「貢献行動」「設計」「計画策定」に大別されること、NPO と連携する教育プログラムがあることなどを明らかにした。また発表によって、本研究に対する国際的な評価を確認することができた。

(2) 東日本大震災からの復興まちづくりにおける大学の地域貢献活動の実践と状況把握

最も被害が大きかった宮城県石巻市や岩手県北上市の「きたかみ震災復興ステーション」、原発事故による放射線被害が深刻な福島県の各地で調査を行った。

調査にもとづき、復興に必要な基本的な考え方を、まちづくり専門雑誌「季刊まちづくり」において、「2 地域復興まちづくりセンターを構築する」「奥州ミクロコスモスの回復」の 2 つを公表した。避難者と避難受入側が協力すること、地形や気候を踏まえて「まち」としての一体性を確保することを提言した。

福島県内の状況と大学の支援活動についての調査・研究成果を、日本建築学会・建築雑誌において、「福島県二本松市を拠点とする浪江町再生への取り組み -生活再建への行動と「復興塾」-」「復興シナリオの検討・共有手法 -福島県浪江町の復興計画の検討に際して-」の 2 つを公表した。また日本都市計画学会・都市計画において、「地域自治とまちづくりによる福島県原発事故避難区域の復興 ~浪江町と二本松市の状況と取り組み~」を発表した。更に、日本建築学会の複数のシンポジウムにおいて、「福島県低濃度放射能被害地域の復興まちづくり方策」「二本松・浪江・須賀川の復興まちづくり」の 2 つを公表した。これらの発表において、日常のまちづくり活動の存在が、二本松・浪江連携の始まりとなったこと、震災後の連携まちづくり活動の「種」は、震災前にあったこと、震災前からの大学といった支援が、震災後も継続・復帰していること、NPO・商店街・近隣コミュニティ・伝統芸能は、非常時にも機能して人々を繋いでいることを明らかにした。また、一つ一つのまちづくり活動を確実に仕上げることやまちづくり計画(マスタープラン)改訂の必要性、「まち」をつ

く発想が必要なことを指摘した。

遠地長期避難者の状況と支援方法に関して、日本建築学会シンポジウムにおいて、「遠地長期避難者に対する受入側の支援方法 -東京都江東区「東雲住宅」を事例として-」を公表した。受入側の支援は必須であること、多様な組織が多様な支援を行うことが求められること、避難者の自主活動では、避難者同士の交流から避難地域との交流へと移行すること、避難者有志の自主活動には、NPO といった市民の支援が必要であることなどを明らかにした。

(3) 芝浦工業大学と地域との連携活動の方法論化

大学の地域活動の効果について、日本建築学会大会において、「地域コミュニティ形成に対する大学の地域活動の効果に関する研究(その1)(その2)」の 2 つを公表した。大学の地域連携活動は、地域のコミュニティ形成に対する一定の役割を果たしていること、様々な地域連携活動は性格が異なるため、複合的に活動を実施することが望ましいことを明らかにした。

芝浦工業大学が行っている運河活用促進を図る地域活動について、日本建築学会技術報告集において「まちづくり協議会が主体となる「船力フェ」の実践」で発表し、また日本建築学会大会において「地域が管理する船着場の活用方法に関する研究(1)(2)」市民の内に育まれる景観 東京臨海部・豊洲で展開される運河活用活動」の 3 つを公表した。運河活用を促進する方法として、住民が協議会を設立して活動すること、協議会が使用できるように、協議会と行政が運用に関する協定を締結した船着場があること、大学研究室といった企画立案と作業実行力がある組織が必要であることなどを明らかにした。

大学と市民、小学校が連携する地域学習の方法について、日本建築学会技術報告集において「小学校・大学・住民の連携による「まちのカルタづくりワークショップ」の開発」を発表した。大学と小学校教員が中心となりワークショップの内容を検討したこと、事前の準備と当日では、住民と大学が連携して作業したことなどを明らかにし、本研究で示した方法が、同様の連携活動の促進に寄与することができた。

大学を含めたまちづくりのネットワーク形成に関する研究として、日本建築学会大会において「まちづくり補完ツールとしての SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の利用方法に関する研究」を発表した。SNS 参加者は、現実での活動も行っていることを明らかにし、調査事例のような方法をとれば SNS はまちづくりの補完ツールになり得ることを示した。

中山間地域での大学の支援活動の効果に関する研究として、日本建築学会計画系論文

集において、「住民の活動と意識変化に着目した協働型集落支援活動の効果に関する研究」を発表し、また日本建築学会大会において「中山間地域における集落の実態と展望に関する研究(3)(4)」を発表した。芝浦工業大学のセミナーハウスがある福島県南会津町館岩地区を対象としたもので、大学の支援活動によって地域間交流活動が始まったこと、集落住民の意識は「リーダー化」「積極化」「協調化」「関与化」へと変化し、集落活動への意識が向上したことなどを明らかにした。

景観形成に関する支援方法に関する研究として、日本建築学会大会において、「景観形成地区指定による住民団体設立と相互連携」を発表した。景観重点地区の指定では、住民とNPO、民間事業者の活動が連携することを考慮すべきであること、大学やNPOが自治体と住民との間の調整役になるべきであることなどを指摘した。

芝浦工業大学のキャンパスに隣接する東京都中央区月島地区に関するまちづくりの地域資源に関する研究成果を著書「月島再発見学」にまとめた。佃島・月島での歴史的・文化的資源の価値や住民活動の価値を説明した。

(4)大学の社会貢献学習に関する国際的な議論の活性化

国際学会において、3本の研究発表を行った。International Union of Architects 東京大会では「Service-Learning in University for Community Improvement -Case Analysis of U.S. Universities」を発表した。米国の大学での社会貢献学習の実態について明らかにすると共に、関連する研究者と交流した。Association for community design では「Development of Community Places Wordbook and Map by Collaboration Between Community and University」を発表した。東京都江東区と中央区での、市民と大学との連携による地域資源単語帳と地図の作成・発行の取り組みについて説明した。日本的な方法として評価され、様々な研究者と意見交換を行った。Pacific Rim Community Design Network では「Method for becoming common of community flowers gardens in old town」を発表した。芝浦工業大学のキャンパスに隣接する東京都中央区月島地区において、市民が自発的に管理・運営するコミュニティ・ガーデンの実態を明らかにした。以上のような研究発表などにより、まちづくりと連動する社会貢献学習に関する研究者との国際的な交流を深めることができた。

国内の学会発表などにより、まちづくりと連動する社会貢献学習に関する国内の研究者との情報交換と意見交換を継続的に行っている。

(5)我が国における大学の社会貢献学習システムとしての社会貢献学習の体制とプログラムの提示

学会などでの多くの研究発表で、我が国における社会貢献学習の体制とプログラムのあり方を提示した。それらが総合的に評価され、研究代表者が所属する芝浦工業大学が、2013年度から文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されている。この事業は、本研究課題である「まちづくりと連動する社会貢献学習システム」を促進しようとするものであり、これまでに本研究成果が実際の教育プログラムとして実現する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

野知菜穂美、倉持康平、志村秀明、小学校・大学・住民の連携による「まちのカルタづくりワークショップ」の開発、日本建築学会技術報告集、査読有、第20巻、第44号、2014、pp317-322、

https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/20/44/20_317/article-char/ja/

細田渉、澤野朋、志村秀明、まちづくり協議会が主体となる「船カフェ」の実践、日本建築学会技術報告集、査読有、第19巻、第41号、2013、pp303-308、https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/19/41/19_303/article-char/ja/

白木里恵子、志村秀明、復興シナリオの検討・共有手法 -福島県浪江町の復興計画の検討に際して-、日本建築学会・建築雑誌、査読無、vol.128、No.1640、2013、pp56

倉持康平、野知菜穂美、志村秀明、景観重点地区指定による住民団体設立と相互連携～東京都江東区景観重点地区を事例として～、日本建築学会・研究懇談会資料集・都市計画部門、査読無、2013、pp41-44

野知菜穂美、倉持康平、細田渉、志村秀明、まちづくりの補完ツールとしてのSNSの利用方法に関する研究 -Facebook グループ「江東区 IDOBATA カフェ」を事例として-、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、都市計画、2013、pp309-310、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009678267>

白木里恵子、志村秀明、佐藤滋、福島県二本松市を拠点とする浪江町再生への取り組み -生活再建への行動と「復興塾」-、日本建築学会・建築雑誌、査読無、vol.127、No.1635、2012、pp2-3、http://jabs.aij.or.jp/earthquake/eq_repo_1_08.pdf

志村秀明、地域自治とまちづくりによる福島県原発事故避難区域の復興～浪江町と二本松市の状況と取り組み～、日本都市計画学会・都市計画、査読無、No.299、2012、pp22-25、

澤野朋、細田渉、志村秀明、地域が管理す

る船着場の活用方法に関する研究(1) - 東京都江東区豊洲地区における船着場の整備と管理体制 -、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、都市計画、2012、pp287-288、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009650426>
細田渉、澤野朋、志村秀明、地域が管理する船着場の活用方法に関する研究(2) - 東京都江東区豊洲地区における「船カフェ」の実施 -、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、都市計画、2012、pp289-290、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009650427>
倉持康平、野知菜穂美、寺澤佳央里、志村秀明、地域コミュニティ形成に対する大学の地域活動の効果に関する研究(その1) - 東京都江東区豊洲地区の地域コミュニティの実態 -、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、都市計画、2012、pp1101-1102
野知菜穂美、倉持康平、寺澤佳央里、志村秀明、地域コミュニティ形成に対する大学の地域活動の効果に関する研究(その2) - 大学が行う地域活動効果 -、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、都市計画、2012、pp1103-1104
黒沼剛、志村秀明、住民の活動と意識変化に着目した協働型集落支援活動の効果に関する研究 福島県南会津町たのせ集落での活動を事例として、日本建築学会計画系論文集、査読有、第76巻、第669号、2011、pp2109-2116、<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019051168>
志村秀明、2地域復興まちづくりセンターを構築する、季刊まちづくり、査読無、No.32、2011、pp40-41、<http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/ISBN978-4-7615-1290-3.htm>
志村秀明、奥州ミクロコスモスの回復、季刊まちづくり、査読無、No.32、2011、pp62-63、<http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/ISBN978-4-7615-1290-3.htm>
細田渉、澤野朋、黒沼剛、志村秀明、中山間地域における集落の実態と展望に関する研究(3) ～福島県南会津町たのせ集落における集落支援活動と自発的活動～、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、E-2分冊、2011、pp433-434、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009522261>
澤野朋、細田渉、黒沼剛、志村秀明、中山間地域における集落の実態と展望に関する研究(4) ～福島県南会津町たのせ集落の世帯主住民の取り組み方と意識変化～、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、E-2分冊、2011、pp435-436、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009522262>

[学会発表](計7件)

倉持康平、志村秀明、遠地長期避難者に対する受入側の支援方法 -東京都江東区「東雲住宅」を事例として-、日本建築学会・東

日本大震災3周年シンポジウム・復興支援まちづくり展、2014.3、東京

志村秀明、二本松・浪江・須賀川の復興まちづくり、日本建築学会・福島県における復興まちづくりを考える、2013.1、福島市

志村秀明、市民の内に育まれる景観 東京臨海部・豊洲で展開される運河活用活動、日本建築学会大会パネルディスカッション・景観の計画的リビジョン4、2012.9、名古屋市

Hideaki Shimura、Method for becoming common of community flowers gardens in old town、Pacific Rim Community Design Network、The 8th International Conference of the Pacific Rim Community Design Network、2012.8.23、Seoul

志村秀明、福島県低濃度放射能被害地域の復興まちづくり方策、日本建築学会・東日本大震災からの教訓・これからの新しい国づくりシンポジウム、2012.3、東京

Hideaki Shimura、Development of Community Places Wordbook and Map by Collaboration Between Community and University、Association for community design、Design in Action、2011.10.10、Philadelphia

Hideaki Shimura、Service-Learning in University for Community Improvement -Case Analysis of U.S. Universities-、International Union of Architects、2011.9、Tokyo

[図書](計1件)

志村秀明、(株)アニカ、月島再発見学、2013、231

[その他]

芝浦工業大学志村研究室

<http://www.sim.arc.shibaura-it.ac.jp/>

月島長屋学校

<http://www.tsukishima.arc.shibaura-it.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

志村 秀明 (SHIMURA, Hideaki)

芝浦工業大学・工学部建築学科・教授

研究者番号：10333139